



kakeruyume
武蔵野市立第五小学校
学校だより 8・9月号
令和8年8月27日

80年、かわるもの、かわらないもの

校長 鈴木 健太郎

2学期が始まりました。毎年感じるのですが、夏休みを越えると子どもの姿が変わります。1か月振りに会うので身長が一気に伸びたように感じるのはもちろん、夏休みにいろいろな経験をしたり、今までの学びが定着し自分のものになったりと、心も体も大きくなって帰ってくるからだと思います。やっぱり学校は子どもたちの声が聞こえているのが本来の姿、活気をもたらしてくれました。

さて、この夏休み、改めて「80周年」という言葉について考えました。今まで「五小の80年間の歴史を大切に、これからに繋げていこう」と話して、5月には子どもたちと祝う会を行い、保護者の皆様にご協力いただきバレーンリリースも行いました。2学期の運動会や五小フェスタも、『80周年記念』の行事として意識しています。そんな中、『今まで簡単に「80年」と一言で済ませていたけれど…』と思ったのです。

80年前の1946年。日本国憲法が公布され、戦後の日本が大きく変わっていくきっかけの年です。福岡の地方紙では「サザエさん」の連載が始まり、1969年に始まったアニメ放送は今も日曜日の夜、私たちにいつもの姿を変わずに見せ続けてくれています。世界初の汎用電子式コンピュータとして公開されたENIAC(エニアック)は、15m×9mの大きな部屋いっぱい大きさで、1秒間で5000回加減計算を行うことができました。

80年後の今、コンピュータはノートPCやスマートフォンサイズになり、子どもたちが1人1台学習者用コンピュータを持ち歩くほどの進化を遂げています。

80年後の2106年、サザエさんは変わらずに放送されているでしょうか。コンピュータ・AIとのかかわり方はどうのように変化しているでしょう。80年という長い時間は、変化の有無を問わず今の子どもたちに大きく関わっていることを感じながら振り返った夏でした。

そして、保護者・地域の皆様には、この夏休みも子どもたちに数多くの体験をさせていただきました。ジャンボリーの思い出は今、青少協・PTA室の前に飾られた大きな旗に書かれています。PTA花火イベント、おやじ倶楽部主催の防災宿泊は、どちらも100人を越える参加があり、いつもの学校ではできない体験を支えていただきました。コミュニティ食堂、今年度は北町調理場の協力を得て行われました。これらは、この地域だからこそ続くよさです。

今学期、学校でも、宿泊行事をはじめとした校外学習、運動会、五小フェスなどの行事、なかよし班活動を中心とした特別活動の充実、1学期の学びを踏まえた学習の継続とさまざまな場としかけを設定していきます。地域で家庭で学校で、五小の、この地域のよさを生かした多様な経験を通して子ども達が成長できるよう、引き続きご理解ご協力をよろしくお願いします。

7月15日(水) 第3回開かれた学校づくり協議会 報告

前半は、前回行った「目指す地域像」について、委員から出た意見をまとめ、共有しました。後半は「あんなこといいな、できたらいいな」と題し、それぞれ思いを深めました。アンケート調査による子どもたちの「イマ」や、目指す地域像が見えてきた今、改めて、五小開かれだからできること、できそうなこと、やってみたいことを、ざっくばらんに話し合いました。途中席替えをし、より意見を深める工夫も取り入れて行いました。

また、80周年に向けた学校の取組を紹介するとともに、2月20日の式典・祝賀会についても、内容を共有し、役割を考えました。次回は9月25日(金)に行います。



8・9月の生活目標

気持ちのよい学校生活を送ろう

生活指導部

長い夏休みを終え、学校に子どもたちの元気な声が戻ってきました。まだまだ暑い日が続きますので、水分補給等の暑さ対策と同時に、「早寝、早起き、朝ごはん」の生活リズムを整えて心も体もすっきりとした状態で学校生活を送れるようにしていきましょう。また、1学期に引き続き、挨拶の指導もしていきます。気持ちのよい挨拶を交わし、互いを尊重し合える学校の雰囲気を高めていきたいと思います。